

## 地球惑星科学基礎 III 演習 (9)

2006 年 1 月 20 日 配布

- i) 和の規約を用いて, 以下を書き下しなさい.
- a)  $x_1^2 + x_2^2 + x_3^2$
  - b)  $df(x_1, x_2, x_3)$ . ここで  $d$  は全微分である.
- ii) Kronecker のデルタの定義と和の規約を用いて,  $\delta_{ii}$  の値を計算しなさい.
- iii)  $\delta_{ij} A_j$  を求めなさい.
- iv)  $\delta_{ij} \delta_{jk}$  を求めなさい.
- v)  $(\partial_j x_i)(\partial_k x_j) = \delta_{ik}$  を証明しなさい.
- vi) テキストの (7.17) を確かめなさい.
- vii) ベクトル解析に現れる公式は,  $\delta_{ij}$ ,  $\varepsilon_{ijk}$  や 和の規約を使うと容易に証明できる. 次にあげる公式を,  $\delta_{ij}$ ,  $\varepsilon_{ijk}$  や和の規約を使って証明しなさい.
- a) ベクトル積に関する公式  $B \times A = -A \times B$ ,
  - b) ベクトル三重積に関する公式

$$A \cdot (B \times C) = B \cdot (C \times A) = C \cdot (A \times B),$$

- viii)  $\varepsilon_{ijk} \varepsilon_{ilm} = \delta_{jl} \delta_{km} - \delta_{jm} \delta_{kl}$  を確かめなさい.
- ix) 流体力学の Lagrange 微分に現れる移流項  $v \cdot \nabla v$  は,

$$v \cdot \nabla v = \nabla \left( \frac{1}{2} |v|^2 \right) + \omega \times v \quad (1)$$

と書けることを証明しなさい. ここで  $v$  は流体の速度場で,  $\omega \equiv \nabla \times v$  は渦度と呼ばれる物理量である (上の関係式は Bernoulli の定理を証明するときに用いられる.)

- x)  $\nabla \times (SA) = (\nabla S) \times A + S(\nabla \times A)$  を和の規約を用いて証明しなさい.
- xi)  $\nabla \times (\nabla \phi) = 0$  を和の規約を使って証明しなさい.
- xii)  $\nabla \cdot (\nabla \times A) = 0$  を和の規約を使って証明しなさい.